



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2024
No.618
2月号

— 審判 —

例しなき 此現世の大峠

日に夜に近むを知るや知らずや

誤れる 道や心に気付かずば

やがて滅びむ神の審判に

浄玻璃の鏡に照らせば現し世の

塵も芥もみな映るなり

龍乗観音



◎教団方針

信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

神言霊

邪神の特色

【御伺い】 邪神はことさら正神らしく見せかけるように思われますが、いかがでしょうか。

【神言霊】 これは無論そうであつて、最初から邪神と判られては人間のほうで警戒するから、邪神の目的は立たぬ。どこまでも正神と見せかけて間違つたこと、悪いことを、善いこと、正しいことのように思わせるものである。邪神はいわば人間界の詐欺師のようなものである。これを認識しないと邪神の術中に陥るのであるから、よほどはつきりとした眼識をもたねばならぬ。

どうしても智慧証覚を磨かねばならぬ。従つて邪神の言動は立派に見えても必ずどこかに欠点のあるもので、容易に見破り得るのであるが、人間はその判断がつかぬため他愛なく騙されるのである。

どうしても全体が幸福を得るといふ、全体幸福主義というような新しい思想が生まれなくてはならない。そこまで文化が向上することを念願として進むべきである。

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

邪神の没落（抜粹）

一口に邪神というが、邪神にも大中小種々あつて、その頭目は凶党界の支配者で、曇りの多い人間ほど邪気の霊線によつて自由自在に操られ、神に対し知らず知らず妨害手段をとるのである。ところが邪神は、今日まで何千年間思うままに振る舞つて来たので、霊界の転換を知らず、今までどおりと思つて悪を続けているのである。しかるにいよいよ霊界の転換が寸前に迫つたので、彼らは眼がさめぬまま、あわて出したのも無理はないのである。

本教に向かつて妨害するものは、観音力から発する光を恐れるので、彼ら邪神界はなんとかしてこの光を防止しようとしてあらゆる妨害を行っているのだ、それが昨今の彼らのあわて方である。しかるに昼の光とは太陽の光線であるから、いかに死に物狂いで防ごうとしても徒勞以外の何ものでもない。ところがここに何人も警戒しなければならぬ一大問題がある。それは邪神に加担したものは、最後の審判の場合、永遠に滅ぶる運命者となるのである。ゆえにいよいよよとなるや、なにほど後悔しても先に立たずで、滅亡するのは必定である。したがつて何よりも今のうち悔悟遷善し、神の大愛に抱かれ、悪から脱却し、善人の仲間に入り、歓喜の生活者となつて永遠の生命を得なくてはならないが、それをわれらは奨めてやまないゆゑんである。

御聖誕祭おことば

神光清かに輝かに照り映え
ますそれぞれの許されました御
参拝所の御神前におきまして、

明主様御聖誕祭百四十一年祭ま
ことにおめでとうございます。
皆様方と厳肅に滞りなくお仕え
いたすことが許され、限りない
感謝を、また、深き御神意に対
しまして痛感いたしますと共に
重ねておめでとうございます。

神様が地上天国(すべての人
が幸せな世の中、神様の御心
にかなった世界)をお造りになる
にあたって、その大愛の御心
あらわれとして一人でも多くの
人間を救うためにお出ましにな
られた方が明主様(岡田茂吉師)
でございます。

本日のこの祭典は、「明主様
の御出顕・救世主としての御救
い」ということでございますよ
う。それを具体的に申しますと、
(一) 地上天国を造られる時に
なったこと。
(二) 人間は、今までの、あや
まちを悔い改めてよい
魂(心)の人、神様の御
心になつた人にならね
ばならない。

(三) 神様は、浄霊の御力で魂
を目覚めさせ、救って下
さること。
(四) このことを一日も早く、
一人でも多くの人に知ら
せてあげること。

ということでございますよ。
御神業といえども神様は私達の
心と体をお使いあそばして進め
ておられます。学びも必要で
しょう。授かる叡智も欠かせま
せんね。神様のお道具として生
かされている私達は常識的に、
つまり社会の一員として神様を
しっかりと見つめて、また、しっ
かりと足元を見つめてまいりた
いものです。そして、明主様
は肉体を通じてなければ出来
ない、そういう御救いの
になれない、そういう御救いの
業を一九五五年二月十日までさ
れ、そして今度はそういう肉体
的の制約を超えた御救いに入ら
れたわけでございます。

神様は、御目標であります理
想の世界、地上天国を創造され
る段階にいよいよこれから入っ
ていかれるわけでございます。
その時に、そういう理想の世界、
地上天国にふさわしい善き魂の

人間に私共がならなければ本当
の地上天国になつてはいかない
のです。
『やさやかなことをゆるがせ
にせず、しかし大いなる望みを
もち』の心を胸に自分の身魂磨
きをする中で、ひとさまのお
手伝い、お世話ができればあり
がたいですね。
明主様は、私達一人一人は、
人間として魂をいただいており
ます。その魂を通じて人間は神
様の御心をそれ相応に掴ませて
いただくことができるのであ
り、そういう力といえますか能
力を神様は私達人間一人一人に
与えて下さっているということ
を教えているのです。

そして今までの誤りに気付いて
それを心から悔い改めて、そし
て神様から永遠の御救いのお許
しを頂けるようにということ
で、神様は明主様を通じてこのお諭
しを解き明かしてくださったわ
けだと思ふのです。もつともつ
と、神様の御心をわからせてい
ただかなくてはいけませんね。
ここに大きな問題があるので
はないでしょうか。自分は神様
の御心に反していない。自分で
はないと思つている人がいるの
ではないでしょうか。心から悔
い改めることのできない人はも
しや邪神に左右されているので
はないでしょうか。『邪神はど
こまでも正神に見せかけて間
違ったこと、悪いこと、これな
どを正しいことのように思わせ
るのである。邪神はいわば人間
界の詐欺師のようなものであ
る。これを認識してほしい』と
諭され、明主様から特にご注意
を頂きました。新年号「真の善
人とは」に載せてございます。
明主様に謝りました。

私達はこの後、怠ることなく、
常に謙虚な心であらゆるご縁の
おかげで生かされていることを
自覚させて頂きましよう。人の
幸を、幸せを願う教団の精神を
胸に精進いたしましようね。

私達は、御目標であります理
想の世界、地上天国を創造され
る段階にいよいよこれから入っ
ていかれるわけでございます。
その時に、そういう理想の世界、
地上天国にふさわしい善き魂の

私達は、御目標であります理
想の世界、地上天国を創造され
る段階にいよいよこれから入っ
ていかれるわけでございます。
その時に、そういう理想の世界、
地上天国にふさわしい善き魂の

令和五年 御聖誕祭及び忘年会

昨年の十二月二十三日、東京
本部にて二〇二三年御聖誕祭が
執り行われました。前回の火水
土の恵み感謝祭同様、他の教会
では先行して祭典が執り行われ
ました。

令和五年最後の本部大御祭典
として、今回は各教会より責任
者が東京本部に見えられ、御参
拝および祭典での御用を一緒に
して頂きました。また、他の教
会信徒も御参拝に来教され、明
主様の御聖誕を祝うにふさわし
い祭典となりました。

そして、この祭典の中で教団
史に於いて非常に重要な発表が
ございました。教団体制が一新
され新たな役員と正式な後継の
挨拶が光守様の御紹介の元行わ
れたのです。前回の神成新年号
にも掲載されておりました通
り、代表役員に山崎明憲、責任
役員に窪田秀男、宮内瑠美の三
名。そして救いの光教団光守に
続く霊統の後継者として戸塚大
介が拜座にて挨拶を行い、次に
山崎会長より、木村前会長の退
任のお知らせが皆様に周知さ



「おことば」を述べられる光守様



東京本部御聖誕祭、御参拝

◀れました。

こうして大御祭典が終了した後、東京教会今年最後のイベントとして「忘年会」が地下食堂を会場に開催されました。大勢の皆様が地下食堂に寄り集り、冬場にうってつけの「おでん」をメインにその他御馳走やお酒類が用意され、大いに召し上がって頂きました。更に、特設の小さい舞台が会場奥に設置され、専従者や信徒代表が中心となり、各自が芸当を披露する出し物大会が催されました。派手な衣装や予想をつかないパフォーマンスに皆様大盛り上がりとなり、こんな楽しいイベントは東京教会では初めてだと大変ご好評頂きました。年末のお忙しい中、何日も前から準備に取り掛かって頂きました皆様には、心より感謝申し上げます。



「恋のパカンス」熱唱 可愛いね！



「お祭りマンボ」ではっちゃける会長



「スリラー」を怪演する祭主 & 大喜びの光守様



「ベッパ-警部」を踊る顧問と信徒総代(ピンク・レディーメドレーのーコマ)



責任役員及び信徒総代による玉串奉奠



新しい代表役員、責任役員、祭主による挨拶



光守様も参加されて「上を向いて歩こう」を大合唱



東京本部地下食堂での忘年会の様子

哀悼慰霊祭

昨年令和五年十二月三十一日、令和四年末から令和五年末までに帰幽された六十柱の御霊様の「哀悼慰霊祭」が光守様ご臨席のもと執り行われました。この日は、祖霊殿に御膳をお供えし、一柱一柱、御招魂させて頂き、献花、善言讃詞、神歌を奏上し懇ろなる御供養の式典となりました。御招魂させて頂いた方は左記の方々です。

御招魂者 名簿(敬称略)

● 信徒16名

令和四年十二月四日	大野 英子
〃 十二月 日	赤木 道子
〃 十二月二四日	大隅 忠子
〃 十二月二四日	中村かおる
〃 十二月二七日	城取 悟
令和五年 一月二日	遠山 久恵
〃 一月五日	五十嵐吾一
〃 一月八日	布山 健次
〃 一月一十日	江幡 剛男
〃 二月一日	小林 勉
〃 二月一日	小林富貴江
〃 二月二日	吉田サナエ
〃 二月六日	鈴木千代子
〃 二月七日	青木 悦子
〃 二月一三日	岡屋 元英
〃 二月一四日	平久ハナ子
〃 三月一日	北村 宏義
〃 三月一三日	加藤 道子
〃 三月一七日	石井 六郎
〃 三月一七日	菅谷 操七
〃 三月二四日	黒柳 勝栄
〃 三月三十日	宇佐美博子
〃 三月三十日	篠田ムツ子
〃 四月九日	遠山 孝雄
〃 四月一日	明石 恒正

令和五年 御霊様のご平安をお祈り申し上げます。

〃 四月一六日	向井地春行
〃 四月一七日	加藤 武
〃 四月二三日	佐々木千束
〃 五月三日	岡崎 具樹
〃 五月五日	唐澤 隆人
〃 五月二十日	西森 ハマ
〃 五月二三日	日隈啓二郎
〃 五月二三日	石渡 フミ
〃 五月二六日	伊藤 修三
〃 六月六日	関川 敬
〃 六月八日	西山千恵子
〃 六月三十日	竹田みね子
〃 六月三十日	友野アイ子
〃 七月三日	花岡六四郎
〃 七月三日	渡部 貫治
〃 七月七日	桑山 洋子
〃 七月一八日	杉山 琴子
〃 七月二二日	高林ミズホ
〃 七月二三日	村井 圭
〃 七月三一日	目崎 久一
〃 八月四日	工藤 正二
〃 八月四日	森川スミコ
〃 八月一六日	滝澤 文雄
〃 九月二二日	鈴木 雅美
〃 十月九日	下原甲子人
〃 十月一一日	稲村 浩幸
〃 十月一三日	石田志津子
〃 十月一五日	岡本 浩太
〃 十月二二日	小塚あきこ
〃 十一月五日	長田 進
〃 十一月五日	土屋みつの
〃 十一月七日	森田喜代子
〃 十一月二七日	石川 景昭
〃 十一月二七日	杉山 秀子
〃 十二月二九日	福澤きよゑ

トピックス

長岡教会竣工三十周年記念祭

令和五年十一月三日(金祝)、長岡教会は目出度く竣工三十周年を迎え、光守様御来光を賜り、宮内責任役員・境顧問ご臨席のもと記念祭を執り行いました。祭典後はこども祭、ビンゴ大会、食事会等、教会全体が一同となって盛大に祝いを寿ぎました。



光守様からプレゼントを受け取ったこども達



寿ぎの「おことば」を添える光守様



ビンゴ大会をこども達と楽しめる光守様



光守様との集合写真

特別大祈願祈念御下賜
守護鈴「光鈴」について

守護鈴 「光鈴」・言霊

『光明に住する人の言霊は鈴の音のごとくと快き』

鈴は古くから、延壽、招福をもたららし、物事が成るといふことで尊ばれております。この「光鈴」は、大光明・明主様の神光を頂き、皆様の御祈願が叶えられるよう、深いお祈りがこめられております。

『如何ならむ濁りし世とて清まなむ誠の言霊響き亘らば』

古来より日本では「言霊は神なり」、聖書にも「言は神なりき」といわれております。日本は言葉の靈妙不可思議な力によって幸福をもたらす国といわれております。お一人おひとりが、「光鈴」を身近におかれ、自らの魂を磨き本心からでた誠の言葉が、鈴の音のごとく快く響き亘るよう努めましょう。

教団創立五十二周年救いの光教団
令和六年(二〇二四年) 甲辰 立春

光守様のご浄霊日

- 二月十一日(日)、十八日(日)、二十一日(水)
- 三月三日(日)、十日(日)、十九日(火)
- 四月九日(火)、二十八日(日)

春季大祭・春のみたままつり、三月感謝祭のお知らせ

◎祭典日 令和六年三月十七日(日) 十時
◎参拝所 東京本部、各布教拠点(本部より一斉中継)
春の大御祭典とともに春彼岸の慰霊祭および三月感謝祭を執り行わせていただきます。
大光明様、明主様への感謝と祈りをお捧げさせて頂くとともに、祖霊様に心のこもった御供養をさせて頂きましょう。
同日、祭典に引き続き輝霊光納齋殿納齋式を執り行わせて頂きます。